

# I 自己評価

学校教育目標	自ら学び続ける意欲と態度を養い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間を育成する。		
◇ 評価する領域・分野	学校経営		
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の「教育方針や指導目標について理解している」という調査について、生徒は68%の生徒が理解していると回答している。また、保護者に対する調査の中で、「教育目標について学校は努めている」という項目の評価が、79%の保護者の方が満足しているという評価をいただいた。</li> <li>学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられるという評価は、保護者の方から78%の評価をいただいた。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 充実した授業・・・学ぶ楽しさ、わかる喜び 授業時間の活用と家庭学習習慣の定着を図る。また、基礎型学力、活用型学力、探求型学力、自らを表現する力（コミュニケーション能力）の育成に努める。</li> <li>(2) ICTを活用した授業研究・・・オンライン授業の充実 学習支援ソフトを活用した授業研究を行い、オンライン授業をより充実させる。</li> <li>(3) 規律ある学校生活・・・凛として美しく 自己の確立（自己有用感、社会的自立）を目指し、正しい職業観（ライフプランの作成）を育てるとともに、基本的な生活習慣の確立に努める。</li> <li>(4) 開かれた学校 社会貢献（ボランティア活動、家庭・地域への貢献）、広報活動に努める。</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	企画委員会、職員会議、職員研修会を通して共通理解を図る。また、生徒指導委員会や特活指導委員会を通じて、関係職員が情報を共有し、対応方針を決定する。		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎学力の定着を図る指導</li> <li>(2) ICTを取り入れた授業研究</li> <li>(3) キャリア教育の充実 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」</li> <li>(4) 全校職員の協力体制のもとでの一貫した生徒指導</li> <li>(5) 部活動の奨励、学校行事の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 家庭学習時間、考查結果や課題の提出状況</li> <li>(2) 生徒の授業での活躍、授業アンケート</li> <li>(3) 産社ノート、ライフプラン発表等</li> <li>(4) 交通事故や遅刻の減少、教育相談体制の活用</li> <li>(5) 部活動の成果、学校行事の満足度</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着とICTの利用をテーマに研修や研究授業・授業アンケートを実施し、教科指導力の向上に努めた。</li> <li>迷惑調査、防犯講話、自転車安全運転講習、一斉登校点検等を実施し、安全・安心な学校生活の確立に努めた。</li> <li>ライフプランの作成と発表等により、総合学科特有のキャリア教育の充実に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒は学習等、教育活動において積極的に活動しているか。</li> <li>②事故が減少し、安全・安心な学校生活が確立できたか。</li> <li>③生徒が将来の夢をもとに主体的に学べたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休校期間はもちろん、登校困難な生徒に対しても、オンラインによる学習支援を積極的に行った。その成果は、授業後の単元テスト等で確認したが、おおむね良好であった。生徒に対するアンケートでも満足度が高かった。</li> <li>◎昨年度の課題に出た、「生徒に配布したタブレットの活用」に対して、今年度は、学習支援ソフトの職員研修会をICT推進部が率先して実施したため、どの授業においてもタブレットの活用が見られた。</li> <li>▲コロナ禍の中、一部の系列や生徒会におけるボランティア活動等による社会貢献だけで、学校全体としての社会貢献等にやや不十分さを感じる。</li> </ul>		総合評価 A (B) C D
10 来年度に向けての改善方策案 各教科において、さらなるICTを活用した授業の実施と工夫改善を推進し、教員の意識改革と授業力向上に努める。また、今年度は大きく改善した働き方改革において、様々な取り組みを来年度も検討する。 生徒と保護者にとって、安全・安心な学校づくりを一層推進するとともに、地域との連携を深め開かれた学校づくりをさらに努める。			

◇ 評価する領域・分野		教務・学習指導		
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>生徒による授業評価アンケートの中にある、「授業の内容に対して自分が理解できたか把握し、予習・復習活動につなげている。」について「そう思う」とした生徒が46.7%と半数に達していない。コロナ禍でオンライン授業が多く実施され、対面での授業時間等が減った影響もあると考えられるが、このような状況下でも、学習の基本である予習・復習が普段からできるように指導していきたい。</p> <p>学習支援ソフトやICTを積極的に活用した授業については、生徒からの評価も高かった。</p>			
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 生徒一人一人の特性等に応じた学力の伸長を図るため、年間指導計画に基づいた創意工夫のある授業展開を研究する。</p> <p>(2) 家庭学習の習慣化を図るために、生徒の特性に応じた課題のあり方を検討し実施する。</p> <p>(3) 学習内容の効率的な定着を目指し、生徒が主体的・協働的に学ぶ学習の更なる研究と実践を通して、教員一人一人の指導力向上を目指す。</p>			
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部（企画広報、教務、学習指導、情報管理）</li> <li>・教育課程委員会、教育力向上委員会、系列担当者会、教科会、行事検討委員会、科目選択指導者会議</li> </ul>			
4 目標の達成に必要な具体的な取り組み	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) シラバスの作成、学習規律の確立の指導、公開授業と授業研究の実施。授業改善に関する教員研修の実施。 (2) 生徒による授業反省・授業評価の実施	<p>(1) 授業での生徒の様子、授業アンケートや定期調査などの結果、公開授業の参観者のコメントと研究グループまたは教科別の目指す授業像の確立。</p> <p>(2) 課題の提出状況、資格・検定の取得状況やコンテストなどの成果、家庭学習時間調査。</p> <p>(3) 科目選択及び教育課程に関する意見や要望</p>			
6 取り組み状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休校期間や登校困難な生徒に対しての自宅学習支援に向け、全ての教員が学習支援ソフトなどの研修会を積極的に行った。</li> <li>・各生徒用に配備されたタブレットの活用方法について、教務のICT推進部が職員研修会や通信環境整備に努めた。</li> <li>・生徒の多様な進路希望に対応できるように、科目選択の幅を広げた。</li> </ul>	<p>①学校再開後の授業における、各生徒の理解度。生徒がしっかりと学習に取り組んでいるか。</p> <p>②生徒用タブレットの活用が様々な場面において、率先して活用されているか。</p> <p>③興味・関心及び進路希望に応じた科目選択ができ、系列の学習に積極的に取り組めたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>		
9 成果・課題	<p>○ICT機器導入当初は、どの教員も不慣れだったが、2年目ともなると、様々な場面でICTを活用する姿が見られた。今年度は各自でICTの活用方法を研究し、その成果を勉強会や研修会などで共有できることができた。</p> <p>◎「生徒による授業反省と授業評価」を行ったが、「計画や目標を決めて学習をし、うまく進んでいなければ見直すようにしている。」という質問について昨年度も多く、86%の生徒が実行していると回答している。</p> <p>▲休校期間や登校困難期間などのオンライン学習支援については、まだまだ問題点が多い。総合学科は授業数が多く、普通科のように授業が組めないため、授業編成も含め、どのような学習支援を目的とするか今後考えていく必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	
10 来年度に向けての改善方策案				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領が始まり、各教科において科目の研究を行うとともに、生徒に身に付けさせたい学力を明確にしながら授業を行う。また、研究授業として授業参観期間を設け、各教科での授業研究に努める。</li> <li>・ICT機器を有効に使うために、さらなる校内研修充実させ、教員のICTスキルアップを目指す。</li> </ul>				

◇評価する領域・分野	進路指導		
1 現状・生徒・保護者を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望に沿った進路指導について生徒・保護者ともに肯定的な意見が多い。</li> <li>・情報提供や進路指導方針については、コロナ禍で保護者説明会やPTフォーラムなどの中止など来校の機会が減り約3割の保護者が「わからない」と回答している。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①メタ認知力を向上させるため、自己の直面している課題を分析し自ら一歩前に踏み出す姿勢を育成する。(自己理解)</li> <li>②課題を見つけ、主体的に情報収集し、知識を統合し、課題を解決するための知識創造ができる力を育成する。(知識活用と創造性)</li> <li>③協調性・ストレスコントロール・コミュニケーション力(傾聴力・発信力)・課題発見対応力など、社会人基礎力を育成する。(協働と人間関係形成力)</li> <li>④社会や時代の変化に柔軟に対応できる人生のマネジメント力を育成する。(人生設計力)</li> </ul>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択と支援について進路指導部が計画立案し各年次会、系列、教科の情報共有と協力のもと実施していく。</li> <li>・各進路行事で関係職員との連携を密にして、生徒への指導、情報提供を行う。また、成果と改善点に関して各種該当委員会で検証し修正していく。</li> <li>・進路指導部内で研究組織をつくり教材・評価についての研究を行う。</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>①メタ認知力向上に向け、「学びの基礎診断」とキャリア教育を結び付けPDCAサイクルを意識した制度設計。</li> <li>②「産業社会と人間」について、資質・能力の養成観点を明確にしたICEルーブリックの作成と評価方法の改善。多面的能力評価の方法について実践的研究を継続して実施。</li> <li>③特に「探究の時間」の計画では、協働する場を設定する。</li> <li>④探究の時間と産業社会と人間の連携、ウィークデーキャンパス訪問、企業と連携した職場見学、県内企業を呼びジョブフェアの開催など、キャリアプランニング力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3年間の学力推移と学びに向う態度の変化をキャリア教育の検証プログラムと結び付け、効果について分析する。</li> <li>②「産業社会と人間」について、学びの基礎診断を活用し学力3要素の変化について検証を行う。</li> <li>③単元ごとのアンケート、学習状況の変化、進路希望等の複数のデータより検証を行う。</li> <li>④進路内定率や第一志望内定率、卒業生アンケートや進路内定者アンケートの経年比較から検証する。</li> </ul>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路内定者及び卒業生へのアンケート調査や各年次で作成するライフプランと学力変化を紐づけして、主体性やメタ認知力の変容について科学的に検証した。</li> <li>②「産業社会と人間」の単元ユニットごとに学習状況リサーチを行い、授業の資質能力別評価、学びの基礎診断の学力推移を連動させた検証を行った。</li> <li>③学力3要素について、「探究の時間」と「産業社会と人間」を連動させ3年間を通して、思考・判断・表現、協働性などを培う授業を実施した。</li> <li>④コロナ禍によりインターンシップは中止したが、業者と連携したガイダンスや上級学校・企業見学については、感染症対策を万全にして実施した。また、2年次就職者対象の企業見学会は、学校に企業人事担当者を複数招いて説明会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路決定に対し自分について客観的な評価ができ、かつ進路目標に向けた主体的な取り組みにより学習成果が上がったか。</li> <li>②社会人基礎力の評価と学力推移に相関性がみられるか。</li> <li>③最終的には、3年次の入試結果で検証する。</li> <li>④就職・進学内定率、ライフプランや系列との関連性について検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> </ul>	
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①出願にあたり自己を振り返って評価される点や自己の適性、ライフプランを重視して、志望校や入試方法を選択して合格している生徒は本年度も8割を超えた。メタ認知力の向上がみられた生徒ほど進路目標の達成率が高いことが研究結果より分かった。</li> <li>○②「産業社会と人間」の学習目標である、考え抜く力、協働できる力、行動する力といったキーコンピテンシーが学習のレディネスとなり、ライフプランニングにより進路目標という動機が加わることで学習習慣の改善がみられることが研究データより科学的に分かった。</li> <li>○③12月末で、大学を第一志望とし推薦・総合型選抜で出願したのは97人、内合格者は86人で合格率は88.7%で昨年度より3ポイント上昇し、一昨年度から5ポイント上昇している。また、就職については本年度も内定率は100%であった。探究の時間については手探りでの実施であったが、ディスカッションやプレゼン、ワークショップ型の入試では圧倒的な合格率であり、十分な成果が上がったと考える。</li> <li>▲④系列と進路先の関連について、進学は76.8%で昨年度から1ポイント上昇したのに対して、就職はコロナ禍で事務や観光系の求人が激減したことの影響で、関連性は75%で昨年より7ポイント下がった。その他、進学では、ライフプランとの寒冷性が低いカルチャー・コンテンツ系の専門学校への進学が3割を超えており早期の退学などが憂慮される。</li> </ul>		<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
10 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインガイダンスによる少人数でのガイダンスについてさらに充実するように系統的に実施したい。</li> <li>・保護者向けのオンラインを活用した情報配信について検討したい。</li> <li>・アンケートでは活用した支援として、未来航路や受験マニュアルを挙げている生徒が多い。身近に活用できる冊子として進路発行の冊子の紙面をさらに充実させたい。</li> <li>・「探究の時間」の評価方法として能力診断テストを独自に開発したが、来年度以降、検証をして適切な評価方法が多面的に検証したい。</li> </ul>		

評価する領域・分野	生徒指導・教育相談	
1 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凜として美しくをモットーに、頭髪・服装・マナー等の指導に重点を置いている。その様な指導は、生徒及び保護者からも良い評価を得ている。今後は、生徒の自主性から公正な態度で生活できることを期待している。岐阜総合生のスタイルを崩さないように、引き続き指導していきたい。</li> <li>・いじめは、見えないところで（ネット上含む）起きているケースが多いと思われる。友人同士の関わり方で、適度な距離感を保ち、束縛せず付き合えるようになってほしい。</li> </ul>	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 凜として美しい身なり・言動・姿勢で学校生活を送らせる。</li> <li>(2) 自他の生命を大切にすると、規範意識の向上を育成する。</li> <li>(3) 基本的生活習慣全般の指導をする。</li> <li>(4) 情報に関するモラルを正しく理解し、正しく利用させるように指導する。</li> <li>(5) 自己指導能力およびコミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、生徒会、各種委員会、MSリーダーズ（MSL）、保護者との連携を図る。</li> <li>・早期発見・早期対応をするため、生徒指導部、担任、年次会、部顧問との連携を図る。</li> <li>・すべての教師による生徒指導および教育相談を推進する。</li> <li>・毎月の職員会議等で指導経過報告や生徒の情報交換を行う。</li> <li>・職員朝会で交通事故、問題行動等の速報を伝え、職員に情報提供する。</li> </ul>	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校集会の度に、マナー等の向上を呼びかける。</li> <li>(2) 交通安全集会、朝の交通指導等で安全意識の向上を図る。</li> <li>(3) 情報モラル講話を前期・後期に実施し、意識を高める。</li> <li>(4) 生徒・職員による朝の登校指導を実施。</li> <li>(5) 全校一斉登校点検(年間6回)を実施。</li> <li>(6) 生徒理解のための職員研修会を実施。</li> <li>(7) 職員会議や朝会の場で生徒情報共有・共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)～(3) 交通事故件数と交通マナー違反件数および情報モラルに関する苦情。</li> <li>(4) 生活委員による登校指導（挨拶・身だしなみ等）の状況。</li> <li>(5) 全校登校点検の検査結果と再検査の状況。</li> <li>(6) 問題を抱えている生徒・要支援生徒の共通認識と支援方法。</li> <li>(7) 多遅刻・多欠席状況等の気になる生徒および問題行動等の情報交換と共通理解。</li> </ul>	
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国・県民交安運動および交安の日を設け、登校時交通安全指導を行った。交通安全委員による全校放送（昼休み）で啓発活動を実施した。</li> <li>・5月と11月の2回、情報モラルに関するLHRを実施。SNS等でのトラブルについての啓発授業を実施。</li> <li>・全校一斉登校点検を年間6回実施。校舎内で実施することに変更した。</li> <li>・生徒理解のための生徒指導職員研修会を実施した。また、毎月の職員会議後に生徒の情報交換を実施した。</li> <li>・今年度はSCが月2回来校と1回増えたにも関わらず、スペシャリストサポートの活用は5回(昨年3回)と増えた。心の悩みを持つ生徒は多く、相談室、保健室、SCを中心に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交通事故件数の増減。交通マナー苦情件数。情報モラル違反の件数。</li> <li>②登校点検の再検査で全員が合格できたか。普段の生活の中での指導。</li> <li>③要援助生徒の情報交換をし、担任、年次会、部顧問、教育相談係、外部機関、保護者との連携ができたか。</li> </ul>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
9 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2か月に1回の登校点検は自分を見つめるために必要と考える。その中で、男子の奇抜な頭髪や女子生徒の化粧に対する判断がとて難しく今後の課題となった。</li> <li>○遅刻者は特に進路決定後の3年生に多いため、気が緩まないよう来年からは指導させたい。相変わらず、バスや電車を利用する生徒の中で、遅延証明書を提出する生徒が多いことから、3回以上で指導をすることにしてからは激減した。</li> <li>▲交通事故は17件であった。すべて生徒が悪いわけではないが、もう少し注意していれば回避できた事故が多いため、さらに啓発活動に力を入れていきたい。</li> <li>▲部活動内での人間関係、友人関係のトラブルが気になる。いじめに発展しないように未然防止の対応策を検討したい。</li> </ul>	
10 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月、11月と交通事故が多いことから、生徒に交通事故防止の呼びかけを行ったが減少しなかったため、来年度は啓発活動に力を入れたい。また、交通ルールに関する苦情等を外部からいただいていることから、登下校時のマナーについても指導していきたい。</li> <li>・来年度からは、学校で自転車点検は行わず、安全整備登録店（自転車販売店）にて自転車点検整備を行うことにしたが、生徒指導部では引き続き、交通安全、自転車置場の駐輪マナーや未登録自転車の指導に力を入れていきたい。</li> </ul>		

総合評価  
A **B** C D

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通じて各種委員会、行事に積極的に参加し、充実した学校生活を送れている。</li> <li>・部活動が健全に運営、活動されている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会活動について 校内活動に生徒が進んで参加し、望ましい学校生活が営めるように努める。</li> <li>(2) ホームルーム活動について 正しい倫理観と奉仕する心を身につけ、豊かな情操と道徳性の育成に努める。</li> <li>(3) 部活動について 自主的・意欲的な活動によって学校生活を充実させるとともに、心身の調和のとれた発達と民主的な人間関係を醸成する。</li> <li>(4) 広報活動について 生徒の活動・活躍を保護者、地域の方々に理解・協力を得られるように努める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌、年次会、生徒会と常任委員会の連携</li> <li>・部活動委員会、部顧問会議における部活動指導</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 年次会との連携による生徒の状況把握</li> <li>(2) 一年次生の部活動における活動調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会活動、ボランティア活動への参加</li> <li>(2) 部活動の定着率と大会などの成績</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体による学校行事の企画・運営</li> <li>・エコキャップ回収などのボランティア活動</li> <li>・部活動の主体的な取り組み</li> <li>・ポスター、生徒会新聞などによる生徒会の広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 積極的に活動に参加できているか。</li> <li>② 正しい倫理観をもって活動に参加できているか。</li> <li>③ 目的をもって活動に参加し、成果を挙げることができたか。</li> <li>④ 生徒会が計画する行事について、保護者・地域の方々が参加して頂けたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A B Ⓒ D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人が、学校行事、委員会活動、部活動等の活動において、主体的・積極的に取り組み、学校の活性化の力となった。</li> <li>○生徒一人一人の自主的活動をサポートする体制として、特別活動部が中心となり、全職員で取り組みことができた。</li> <li>○部活動では、コロナ禍の影響で大会の中止や活動制限が続いたが、各部で知恵を出し合い、短時間で効率よく活動を続け、多くの部活動で顕著な成果を挙げることができた。</li> <li>○コロナの影響により、学校行事の中止や縮小化を余儀なくされた。その中でコロナ感染対策を万全に行い、できる範囲での行事を実施した。また、生徒会発案による新たな全校企画を実施できたことに成長を感じた。</li> <li>▲LHRを充実させ、さらなる帰属意識を持った取り組みが出来るよう、特別活動部が中心となって、LHRの在り方や内容について研究していきたい。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。部活動において、活動についての見直しや部活動以外の生徒の自主的活動についても支援できる体制を作り、一人一人がより活躍できるようにサポートする方法について検討する。生徒会活動・HR活動においてより積極的に参加できるように、生徒一人一人の個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。</p>	

2	評価する領域・分野	「保健管理」「安全管理」		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・該当する項目について、概ね良く評価されていたが、新型コロナにおいては、意見・提案等が多く、改善・実施できることは、取り組むことができた。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 運動を積極的に実践継続していく能力と態度の育成の向上に努める。 (2) 清掃意識の高揚と積極的な清掃活動をとおして、快適な学校環境づくりに努める。 (3) 学校内外における事故等に対する危機管理態勢を確立する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員：保健厚生部（健康体育課係・環境推進係・学校防災係） 生徒：保健委員会・環境美化委員会・		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 集団行動の徹底、新体力テスト（授業内・耐寒競歩大会（中止）を通じた運動の実践 (2) 自己の健康管理 (3) 清掃活動 (4) 安全保全		(1) 諸行事・集会等が一部中止。 県内高校での順位や活動状況は不明 (2) 保健室利用状況と利用内容 (3) 清掃状態の点検・確認、新型コロナ感染症対策 (4) 実施状況・参加状態の確認	
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
	・行事・集会等は放送やオンライン等で開催 新体力テストは授業内実施。耐寒競歩は中止だが、授業において長距離走を実施。 ・保健室の利用状況、生徒の健康状態の把握 ・環境美化の推進 ・命を守る訓練、シェイクアウト訓練 ・防災に関する意識づけ		①行事・集会時、素早い行動が、出来たか。新体力テストの結果は。長距離走ができたか。 ②利用状況と内容はどうか。 ③清掃状態はどうか。 ④命を守る訓練等の状況。 ⑤自衛消防組織は機能的か。	(A) B C D  (A) B C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
11	成果	○集団行動は、大人数での集会が禁止されたため学年レベルでの指導となった。新体力テストでは、今年度も良い成績であったが、新型コロナの関係で、体育の授業内での実施となった。 ○保健室の利用において、心の問題を抱える生徒が見られたが適切に対処。 ▲救命救急法講習会は、中止。 ▲職員対象の自衛消防組織を学ぶ講習会も実施することができなかった。 ○毎朝の健康チェック、消毒など様々な新型コロナ感染症対策を行った。 ▲救命救急法講習会、自衛消防組織研修が中止となったため、防災に対する意識づけが低下、危機管理の面で不安な1年となった。		総合評価  (A) B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・今年度も、新型コロナ対策が中心となった。来年度も継続して対策を進める。 様々な場面での3密回避について、HR、委員会を中心に、生徒の意識向上を図る。 ・中庭の除草、廊下のポリッシャーやエアコンの清掃をボランティア以外で行うことを検討する。 ・学校防災関係は、全生徒の防災への意識向上も含め、HRでの活動を検討していきたい。また、災害時の学校備蓄品のアレルギー対応を進める。 ・サーキュレーターやCO <sub>2</sub> モニターを活用した教室の換気を注意深く見ていく。			

評価する領域・分野	◇ 図 書	
1 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「図書館の利用回数」について、「一度もない」という生徒が53%で前年度と比べて5%減少している。「朝の読書」は約6割の生徒が楽しいと回答した。	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 読書を通して豊かな人間性を涵養するよう努めるとともに、学習や教養の情報センターとしての機能の充実に努力する。 ◇ 図書館運営において、各教科や部活動との連携に努める。	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書運営委員会（各教科、年次会との連携） ・生徒図書委員会（図書館だより、各種行事）	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「朝の読書」、読書感想文コンクール、読み語りの会などにより読書習慣を身に付けさせる。 (2) 広報誌の発行、館内外ディスプレイ、図書委員会活動により来館者・貸出数の増加を図る。 (3) 十分な資料を揃え、学習センターとしての役割を果たす。	(1) アンケートや「朝の読書」時の生徒の様子を観察し把握する。 (2) 図書館アンケートと貸出状況の統計により、来館者が増加したか、貸出状況はどうかを分析する。 (3) 図書館利用状況の統計と先生方からの要望等を分析する。	
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評 価
・「朝の読書」は、本忘れが前年に比べ減少し、静かな環境で実施できた。 ・館内外のディスプレイを工夫し、図書館だより『A. L. L.』や『朝読なう!!』で紹介した本を見やすい場所に展示し、貸出増加に努めた。 ・予算縮減に伴い雑誌の購入数を抑えた。 ・慣例により行われていた図書購入方法を一部改め、基準に沿った処理を行った。	① 静かで落ち着いた環境の中で読書に集中させることができたか。 ② 一人でも多くの生徒に、読書への興味・関心を持たせることができたか。 ③ 十分な資料をそろえて、教師・生徒の両者が満足できる授業支援ができたか。	A B C D A B C D A B C D
9 成果 課題	○落ち着いた環境で、火～金曜日「朝の読書」を実施することができた。 ○図書館だよりの工夫など生徒図書委員会の活動を充実させることができた。 ○読書指導の一環である「読み語りの会」は、三密をさけながら実施した。 ○読書感想文をmanabaを用いて提出させた。 ▲来館者数の統計を取ることができなかった。 ▲図書の選定について、リクエスト、司書が挙げるものすべてを通すという慣例になっているようであるが、中身を吟味して慎重に行う必要がある。	総 合 評 価 A B C D
10 来年度に向けての改善方策案	・「朝の読書」がより一層充実し、生徒一人ひとりが読書習慣を身に付けられるように広報活動を工夫したい。 ・図書館で何ができるのかをよく広報し、生徒の学習支援に寄与するよう努める。 ・年度の初めに、来館者数の統計も取るということを図書部内で共通して認識する。 ・図書の選定は学校司書、司書教諭だけで行うのではなく、各教科の代表の先生方も含め意見交換しながら行うのが理想である（全国学校図書館協会）。本校は図書部内のみで行うという内規になっているので、内規から検討する。	

2 評価する領域・分野	◇ 渉外	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナ感染症の影響で学校行事の中止・延期等の自粛対応がなされ、同時に保護者の来校機会もほぼない状況となった。役員会議も極力少なくして打合せ（情報交換等）を実施した。</li> <li>・学校へ行けない状況の中、保護者は学校の現状・予定・変更・結果などを逐次情報が欲しいと思われる。すぐメールを活用し、迅速に連絡をしているが、学校ホームページの更新が遅れている。定期的に最新情報を挙げるようにする。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校とPTAの連携をより強化し、生徒が明るくいきいきとした高校生活を送れるように援助する。</li> <li>◇学校行事の取組を通して、各種委員会の活性化を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者：PTA会員（本部役員・運営委員・各種委員会との連携）</li> <li>・卒業生：同窓会会員</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) PTA役員・進路指導委員会・同窓会役員による2年次生の面接指導。</li> <li>(2) 生活指導委員会と生徒交通安全委員の合同による登校時における挨拶指導・交通指導。</li> <li>※ その他の計画されていた活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校の様子を理解し、より多くの会員が学校行事に参加することができたか。</li> <li>(2) 学校を理解し、教員とともに生徒のための助言ができたか。</li> <li>(3) 生徒が充実した活動ができるように学校との連携のもと側面的援助ができたか。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年連続PTA総会は書面会議となった。</li> <li>・3年次生面接指導および夏のPTA合同交通安全指導は実施することができた。</li> <li>・PTAバザーや豚汁の炊き出しなど中止。球技大会の当日に飲料水を配付。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTA会長との連絡を密にし、学校の状況などを報告する。</li> <li>②総会資料を全PTAに送付し、意見を求め承認を得る。</li> <li>③役員との連絡網をしっかりとし理解を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</li> <li>A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D</li> <li>A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年もPTA総会は書面会議とし、生徒に配付し保護者に行きわたるようにした。質問・異議申し立てもなく、全項目に対して承認を得たことと判断した。</li> <li>○学園祭・耐寒競歩大会の中止に伴い、PTAバザーや炊き出し（豚汁）も中止とした。また、6月のPTフォーラムも中止とした。</li> <li>▲PTA活動がほとんどできない状況が2年続き、各活動を経験して見える役員がどなたもいなくなり心配である。来年度もどのような状況になるかわからないが中止するだけでなく、役員の方々との連絡・会議等を適宜行い、できることを検討する場を設ける。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事に関わるPTA活動の計画・変更等の内容をPTA会員の皆さんにもわかるように、学校ホームページに掲載するなど、現況を報告することも検討する。</li> <li>○ PTA活動ができなかったことに代わる還元としてQuoカードを全PTA会員の方々に配付した。来年度も同じ状況になった場合、Quoカードの配付が適切であるのか。ほかの方法があるのか。また、会費の徴収金額の減額についても検討する。</li> </ul>	
	総合評価 A <input type="radio"/> B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

3.0◇ 評価する領域・分野		1 年 次	
1 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級学校見学会や進路希望調査により、多くの生徒は進路に関する意識を向上させている。</li> <li>・「産業社会と人間」を通じて、望ましい職業観を育成している。</li> </ul>		
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 主体的な学習態度を育成するとともに、様々な体験や情報を通じ、自ら考え判断し行動できる力を育成し、自己のあり方を探求させる。</p> <p>(2) 自己を見つめ、自己の個性を発見し伸長させるとともに、お互いを尊重する思いやりの心、協力し合う態度を育む。</p> <p>(3) 社会や集団の一員としての所属意識を高め、自覚と責任を育み、規律の大切さを理解させ、自己実現を図る能力を育成する。</p>		
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会における情報共有（毎週の打合せ会及び定例の年次会）</li> <li>・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列、部活動との連携</li> <li>・年次運動会など行事へのクラス、年次単位での取り組み</li> <li>・クラス独自のロングホームルーム企画の研究と実施</li> </ul>		
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 「産業社会と人間」における進路情報の収集や体験的な学習を通じて、職業観の育成と進路実現に向け努力させる。</p> <p>(2) 学校行事や部活動に積極的に参加させる中で、一人一人の役割を自覚させるとともに、社会規範を遵守する態度を育成する。</p>	<p>(1) ノートやレポートなどの提出率や内容評価によって、取組の積極性や意欲を評価する。</p> <p>(2) 球技大会、学校祭などの特別活動や部活動など、教科外活動に対して、担当者や部顧問から、年次の特色を評価する。</p>		
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。</li> <li>・「凡事徹底」を学年目標に掲げ、基本的な生活習慣を身につけるとともに、社会規範やモラル意識の定着を図る。</li> <li>・朝読書を通して、落ち着いて学習に向かう姿勢を育成し、自己啓発の場となるよう促す。</li> </ul>	<p>①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。</p> <p>②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。</p> <p>③一日の始まりの有効な時間とすることができたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
9 成果・課題	<p>○「産業社会と人間」における様々な講話や講演、科目選択への取り組み、ライフプランの作成等において、自己の将来について真剣に考えることができた。</p> <p>○身だしなみ・環境美化・時間を守る意識等、年間を通じて一定程度の集団規律を維持することができた。</p> <p>▲落ち着いて授業に取り組むことはできたが、自ら課題を設定して意欲的に取り組む姿勢を十分に醸成するには至らなかった。</p>		総合評価
10 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種取組の趣旨を確認し、急いで形だけになることなく、生徒がじっくり考える場を設定する手法を模索する。</li> <li>・命と安全について最優先に考える姿勢をもつと共に、交通安全指導を徹底する。情報モラル等についてはあらゆる機会を通じて啓発活動を行っていく。</li> <li>・年次会、生徒指導部（教育相談）をはじめ、関係部署との連携をさらに充実して、生徒の動きに迅速に対応した指導をおこなう。また、欠席の多い生徒に対して、一人ひとりに寄り添う指導が必要である。</li> </ul>			

2 評価する領域・分野	◇2年次	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動をはじめ諸行事への取組が活発で、積極的である。</li> <li>・系列別毎の学習等を通じて、進路設計をサポートしている。</li> <li>・学習に対する意欲が乏しく、進路実現に不安を感じる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 主体的な学習態度を確立するとともに、さまざまな体験を通して、自己の「あり方、生き方」を探求する態度を育成する。</p> <p>(2) 自己の個性を伸長させるとともに、諸活動に主体的に取り組む力を育成する。</p> <p>(3) 所属意識の定着とその一員としての自覚を持たせ、互いを尊重する思いやりの精神を養う。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列との連携</li> <li>・年次会における情報共有</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 自らが選択した学習を通して、学習に対する真剣さと積極的な態度を育成する。</p> <p>(2) 学校行事や特別活動等への積極的な参加と、2年次生としての役割を自覚させ、主体的に行動できる力を育成する。</p> <p>(3) 社会、家庭、学校における集団生活の中で、規律の大切さを自覚させ、社会的規範を遵守する態度を育成する。</p>	<p>(1) 進路希望実現のための基礎的及び応用的な学力や技術を身に付けることができたか。</p> <p>(2) ホームルーム活動や部活動、諸行事等に積極的、主体的に取り組むことができたか。</p> <p>(3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。</li> <li>・規律のある行動を心がけさせ、社会規範やモラル意識の定着を図る。</li> <li>・自己の将来設計を見据えて、主体的な学習態度を確立させる。</li> </ul>	<p>①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。</p> <p>②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。</p> <p>③計画的、継続的な学習習慣を身に付けることができたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果・課題	<p>○自ら選択した系列の学習を通して、自己の将来について真剣に考えることができ、外部模試や資格試験などにも積極的に取り組むことができた。</p> <p>○年次会での情報共有を密にし、問題解決に向けて関係部署との連携を図り、迅速かつ適正に対応することができた。</p> <p>○コロナ禍の中、日程の変更、行き先の変更はあったものの感染防止対策を徹底して、無事に修学旅行を実施することができた。</p> <p>▲家庭学習の定着を図っているが難航している。生徒の意識改革が必要である。</p> <p>▲普段の学校生活においてコロナウイルス感染防止対策の徹底が不十分だった。生徒への意識改革が必要である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化により、さまざまな悩みを抱えた生徒が増えている。より専門的なサポートを行えるよう学校・保護者・カウンセラーの他、必要に応じて外部団体にも協力を求めながら行う。</li> <li>・感染症対策や交通事故・情報モラル違反等を減らすため、あらゆる機会を通じて啓発活動や考える機会を設け、生命の尊さや社会規範の持つ意味を理解させ、望ましい行動ができる人材を育成する。</li> <li>・各自の進路目標に合わせた適切かつ確かな助言を行うことができるサポート体制を、教科や系列と連携して行えるよう整備する。</li> </ul>		

2	評価する領域・分野	◇3年次			
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動をはじめ諸行事への取組が活発で、積極的である。</li> <li>・系列別毎の学習等を通じて、進路設計をサポートしている。</li> <li>・学習に対する意欲が乏しく、進路実現に不安を感じる。</li> </ul>			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇様々な体験や学習を通して、自らの在り方や生き方を探求し、進路目標を実現する力と態度を育成する。 ◇個性の更なる伸長とともに、意義を持って諸活動に取り組む力を育成する。 ◇集団の一員としての自覚を持ち、学校行事等の企画や運営など積極的に参画し、他者と協力して目的を達成できる力を養う。			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列との連携</li> <li>・年次会における情報共有</li> </ul>			
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 進路情報等適切に収集、分析、活用させるとともに、自らの考えを明確にさせる。 (2) ホームルーム等、集団生活の中で、自らの役割を認識させる。 (3) 他者とのコミュニケーションを通して、社会的弱者への配慮や人権遵守の精神の確立を図る。		(1) 進路目標の設定、その実現に向けての具体的な計画立案及び努力が見られるか。 (2) 部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等に積極的且つ自主的に取り組んだか。 (3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。			
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部、進路指導部、系列等と連携を密にして進路及び学習に関する情報交換を密に行おうとした。</li> <li>・部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等自主的に取り組めるよう計画した。</li> <li>・機会があるごとに生徒の意識を喚起し、年次会内での意思統一を図り、同一視点での指導を図った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ意識で連携を取りながら指導がなされたか。</li> <li>・各行事、行動に意義を持たせ、自主性を発揮させられたか。</li> <li>・生徒の意識は向上してきたか。</li> </ul>		A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11	成果課題	○3年次としての自覚を持たせ、進路実現に向けて前向きに取り組ませることができた。 ○平素の注意喚起が奏功したのか、事件・事故がたいへん少なかった。 ▲進路指導が決まった後、生活に緩みが出てきた生徒が少なからずいた。 ▲コロナ禍のため、部活動の大会や学校行事等が中止となり、目的を見いだせない状況が少なからずあった。		総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人が前向きに目標に向かって取り組めるよう、啓蒙活動や考える機会を設けるとともに、保護者・カウンセラーの他、外部団体にも協力を求めながら、サポート体制を整えていく。</li> <li>・年次会でHR活動や、クラス内の状況、進路状況や指導の経過など連絡を密にとり、情報共有を行い連携・扶助していく意識を各担任間で育成する。</li> <li>・本校の幅広い進路希望に適切に対応する必要がある。進路指導部・各系列と連携するだけでなく、担任一人一人が進路研究を進めるとともに、生涯学習の大切さを生徒に訴えていく。</li> </ul>					

### 【意見・要望・評価等】

#### (1) 教務部の取組等に係る意見・要望・評価等

- ・コロナ禍でICTの活用は必須である。活用されていることが良くわかる。海外遠征していた生徒にも活用できたのは良かった。
- ・新学習指導要領に向けた準備が着々と進んでいるようであるが、本校ならではのカリキュラムと実行を期待する。
- ・コロナ禍下において、タブレットを活用しての学習支援ができていることを評価したい。さらに感染防止をしながらの教科の工夫により、クラスターが発生しなかったことは、教員の指導が生徒に徹底されていたと思う。
- ・ギガスクール構想のICT機器の活用が、コロナ禍でのwebによる自宅での学習に活用でき、学びを止めることなく学びが継続され、さらに個人面談ができて良かったと思う。
- ・「あの人に会いに行こう」で、私のところに3名の生徒がインタビューに来てくれた。すごく礼儀正しく積極的に質問してくれた。参考になったか心配であったが、この取組は、職業の表面的なことではなく、核の部分を知ることができると思った。
- ・自宅ではWi-Fi環境の中で授業を受けているが、電波の状況でたまに途切れたりすることがあって、内容が繋がらない時があり不便であった。総合学科ということもあり、タブレットではできることが限られる中で少しでもwebでできたことは良かったと思う。Web授業はありがたかった。
- ・中学生の高校見学会に参加した人数(4日間で767名)から、貴学への興味・関心の高さがうかがわれる。
- ・情報発信は、コロナ禍では思うようにはいかないと思うが、ホームページの充実は大切であるので、更新が多かったのは良いと思う。コロナ禍でPRが出来ない中、アクセスしたくなるホームページを作成してほしい。また、部活動での活躍が盛んに新聞に載っていたが、もっとメディアを使っているいろいろな活動を紹介してもらってもいいのでは。特に総合的な探究などは話題になると思う。
- ・コロナ対策をしながら学校という密になりやすい集団生活の中で教育をすることは大変だと思う。学校の取組や先生方の努力で学びを止めることなく教育が行われていることが素晴らしいと思う。

#### (2) 進路指導部の取組等に係る意見・要望・評価等

- ・コロナ禍でこれからの将来について不安になると思い進路が決められないこともあるのかと思う。目標実現に先生方の温かい指導を願う。進路決定は人生の節目であるので、コロナ禍においてもできる限り対面での指導をお願いしたい。
- ・1年次ライフプラン発表会に2・3年次代表を参加させ発表させたことは、1年次生には良い刺激をもたらすので、今後も継続していただきたい。
- ・自分がどうありたいかを知るためのキャリアデザイン、想像や自己分析、イメージ作りなどができないと、行きたい学校も自分が輝ける生きがいも持てる職場も分からないのではないかと。生徒本人の問題でもあるので個人的な指導が大変だと感じた。
- ・多くの生徒が進学している様子から将来の自分の目標を持つての進路選択が大切だと思う。生徒たちに基礎学力をつけさせることも重要だと思う。
- ・コロナ禍でスムーズに授業が進まない中で、就職内定率が100%、進学率80%以上なのは先生方のサポートのおかげだと思う。
- ・進路指導の難しさを感じた。就職・進学試験に不合格で進路変更をするのは大変だと思うが、キャリア発達が進まず、キャリア発達が未熟であるとあったが、これからの指導ではキャリア発達の進まなかった生徒に対しての対応とともに、保護者もキャリアについて学び、家庭でもしっかりと話し合ってもらうことが大切かと思う。
- ・大学の入学金については、奨学金や国の援助等や学資ローンなど学びの支援はないのか。入学辞退は残念である。
- ・進学志向の生徒が多くなっているとよく聞く。だからと言って進学指導に偏ることはどうかと思う。一般受験者は少なく、就職する生徒もいるという現状を考えてほしい。
- ・コロナ禍でも生徒にキャリアをつけさせることは重要である。web等による行事の実施等先生方のさらなる工夫をお願いしたい。

・今年度もコロナ禍ということで大学や専門学校のオープンキャンパスも中止になったりと生徒たちにも戸惑いがあったと思う。その中での指導はありがたかった。

・退学や離職をしない、生徒自ら決定する進路選択をお願いしたい。

### **(3) 生徒指導部の取組等に係る意見・感想・提案等**

・月に1回だったカウンセリングを月2回実施したことは良かったと思う。コロナ禍で今までとは異なる状況であるため、生徒に寄り添ってもらいたい。SNSの利用についての指導も継続して実施してもらいたい。情報モラルに関しては講演を聞くだけでしょか？

・コロナによって悩みや不安も変化している可能性があると思う。心のケアは大切である。

・多様な生徒の指導は大変かと思うが、個に応じた指導をお願いしたい。

・「心の病」を訴える生徒が多く出ていると聞く。関係諸機関との連携を今まで以上に蜜にしながらの指導が望まれる。また、本校指導者が共通理解（是々非々）のもと指導する必要がある。生徒の悩みに注意をはらい早めにカウンセリングを進めることが大切だと思う。

・交通事故件数の減少、携帯電話不正使用件数の減少等、生徒たちの努力が進んでいることがうかがえる。

・何とか交通事故数を減らしてほしいです。学年によって状況は違うと思うが。

・交通事故防止に関しては実体験で講演していただける方がいるなら、そのほうが記憶に残るだろうと思う。以前、保護者同伴でそのような話を聞く機会があったが大変良かった。

・遅刻が多い学年は交通事故数が多いように見える。時間に余裕をもって行動してほしい。

・私自身、何度か警察に止められている生徒を見ている。たぶん自転車の並列走行だと思うが、生徒一人一人の自覚が必要だと思う。

・選挙権が18歳、成人も18歳と高校のうちに大人としての責任や一般常識等の指導が必要になってくると思う。人間教育をよろしく願います。

### **(4) 本校の教育活動全般、地域連携協力の在り方や学校への期待、質問、提案等**

・オリンピックで活躍した卒業生を招聘し講演会等を実施されたのは良かった。今後も、多方面で活躍されている外部人材を活用してほしい。

・総合学科の特徴を最大限発揮した、未来の日本を担う生徒の育成に尽力してほしい。

・岐阜総合学園高校の良き伝統を生徒に伝え、継承し、母校愛、誇りの持てる子どもたちの育成をお願いしたい。

・地域や卒業生に出来ることは全面的に協力する。相談いただければ幸いです。

・今はコロナ禍で依頼していないが、2年前まで太鼓部に「岩野田地域」の祭り行事に参加協力を依頼していた。地域の方々の評判が良く「コロナ感染が終息し祭り行事の再開には総合学園の太鼓部に参加協力してほしい」と願っておられる。よろしく願います。

・防災教育（防災出前講座）、工業教育（土木教育）など授業等で協力したい。

・総合学科として特色ある教育内容をさらに充実させていくとともに、基礎学力の強化にも努めてほしい。

・教員の働き方改革として、先生方の負担軽減も検討してほしい。

・コロナ禍での学校教育は大変だと思う。高校時代はいろいろなことを吸収し、社会人としての準備の大切な時間なので、一人一人に寄り添った指導をお願いしたい。そして高校で学んだことが卒業後も就職先や進学先への聞き取りアンケート等をして頑張ってる状況を把握できるといいと思いました。